

当社は福島第一原子力発電所で発生したような事故を決して起こさないとの強い決意のもと、「安全性向上計画※1」を策定・公表し、泊発電所の安全性をより一層向上させる活動に継続して取り組んでまいります。
 ここでは、安全性向上計画に基づくこれまでの取り組みと、今後更なる安全性の高みを目指すためWANOやJANSI※2等の世界のエクセレンスを活用した取り組みや泊発電所のリスク認識を共有するためのリスクコミュニケーションの取り組みについてご説明します。

※1 添付資料1『計画編』と『実績・評価編』で構成されております。
 ※2 WANO：世界原子力発電事業者協会 JANSI：（一社）原子力安全推進協会

1. これまでの対策概要と、平成28年度の取り組みの全体概要

1-1. 安全性向上計画に基づくこれまでの取り組み

当社は、これまで新規規制基準を踏まえ、「**自然現象等からの安全機能の強化**」「**炉心損傷の防止対策**」「**格納容器の破損防止対策**」「**放射性物質の拡散抑制対策**」に取り組んできました。

自然現象等からの安全機能の強化対策



格納容器の破損防止対策



炉心損傷の防止対策



放射性物質の拡散抑制対策



今後も、「**安全性向上計画**」に基づき、ハード面の対策のみならず、**ソフト面の対策もバランス良く講じる**ことにより、泊発電所の安全性を一層向上させていきます。

1-2. 世界のエクセレンスを活用した更なる安全性向上

当社は、WANOのコーポレートピアレビュー（本店ピアレビュー）等を通じて、安全性を一層向上させるためには世界の原子力事業者の**エクセレンス（最高水準の安全性）**に関する事例の活用が重要であることを認識しました。

トップの強い**リーダーシップ・ガバナンス（統制）**の下、各階層の**管理者もリーダーシップ**を発揮し、第三者による**オーバーサイト（監視）**も活用しながら、目標とする**エクセレンスの実現**に取り組むことにより、世界のエクセレンスを目指します。

⇒ 世界のエクセレンスを目指した具体的な取り組み事例については、裏面「2-1」をご参照下さい。

当社は、WANO,JANSIの**エクセレンスガイドライン**等を積極的に活用して、泊発電所の安全性を一層向上させていきます。

<目標とするエクセレンスの項目例>

- ・リスクマネジメント
- ・緊急時対応
- ・運転経験
- ・運転・保守
- ・化学・放射線防護・放射線安全等

1-3. リスクコミュニケーションの取り組み

当社は安全性向上計画について毎年公表し、多くの皆さまからご意見をいただいております。

また、現在、これまでの取り組みに加え、**泊発電所周辺の20市町村の会場で泊発電所の安全対策についての地域説明会を実施**しています。

当社はできる限り分かりやすい資料の作成や丁寧な説明に努めてまいります。住民の皆さまから頂いた貴重なご意見については、今後策定する安全性向上計画や、リスクコミュニケーション活動の参考とさせていただきます。

地域説明会では、以下のようなご質問・ご意見をいただいております。

- ・泊発電所の安全対策に関するもの
- ・原子力発電所の必要性に関するもの
- ・防災に関するもの等



更なる安全性向上を目指した取り組み 全体イメージ

更なる安全性の高みへ

トップによる先導

「リーダーシップ」「ガバナンス」

パフォーマンスを監視
「オーバーサイト」

緊急時対応

「技術交換訪問の受入れ」
「セミナーなどに参加」

原子力安全における
基準となるエクセレンス

原子力安全の最高レベル
に対する世界標準

「ピアレビューの受入れ」

原子力安全の分野

運転・保守

リスク
マネジメント

他社への調査
他社との情報交換



2. 具体的な取り組み (これまでの活動実績を含む)

2-1. 世界のエクセレンスを目指した取り組み

(1) リーダーシップ

泊発電所では、過去に発生した事故事例を「今日は何の日」活動として、毎朝発電所長自らが率先(リーダーシップを発揮)して所内の管理者に周知し、安全意識の徹底を指導しています。

3月11日 福島第一原子力発電所事故
4月26日 チェルノブイリ原子力発電所事故



「今日は何の日」活動における
泊発電所長からの事故事例の紹介

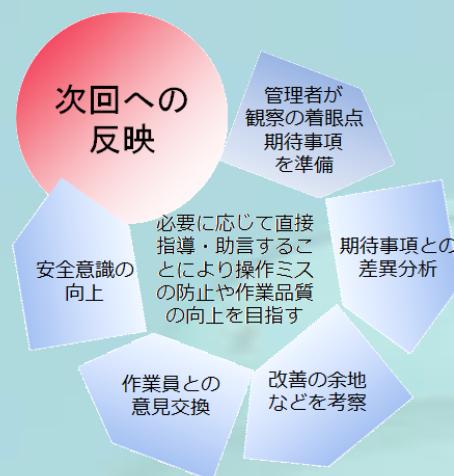
(2) マネジメント・オブザベーション (略称:MO) (管理者による観察) 活動

管理者が、関係者に期待事項を事前に明確に示し、期待事項どおりの成果が出ているか管理者が現場観察を行い、必要に応じて直接指導・助言することによりパフォーマンスを向上させる活動を行っています。

WANOピアレビューを契機に平成27年5月にガイドラインを定め、運転、保守等の様々な分野の管理職が実施し、ヒューマンエラーの防止や作業品質の向上に取り組んでいます。

<取り組みの実績>

H26,27年度 計500件以上実施

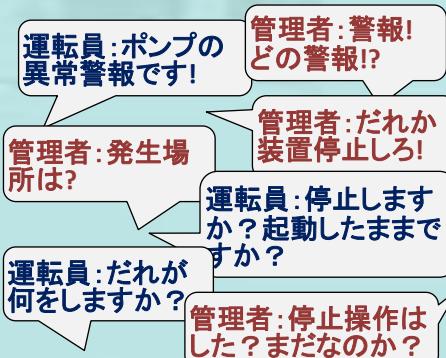


(3) 中央制御室内運転員の事故時基本動作の改善

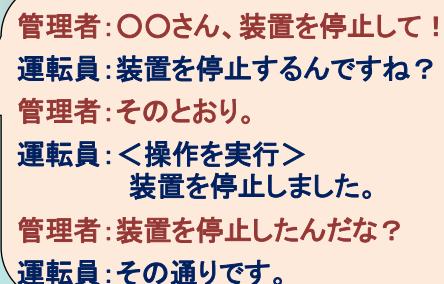
従来は、事故時に警報が頻発する喧騒状態の中で運転員間の指示・報告・確認を行っていましたが、静穏な環境下で、重要事項に限って確実な指示・報告・確認するスタイルが世界のエクセレンスです。

WANOピアレビューを契機に平成28年1月にガイドラインを定め、中央制御室内運転員の事故時基本動作の改善に活用しています。

<改善前のコミュニケーション>



<改善後のコミュニケーション>

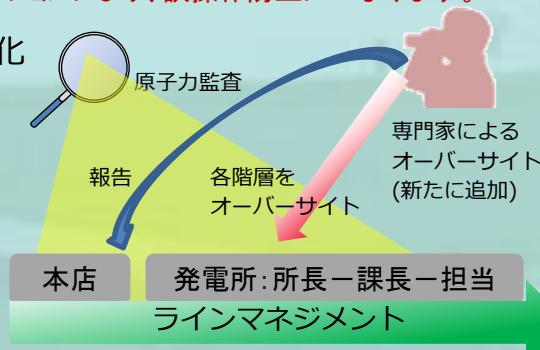


重要事項の指揮命令、報告の優先度を考慮した、明確なコミュニケーションにより、誤操作防止につなげます。

(4) 発電所オーバーサイト (監視) 機能の充実強化

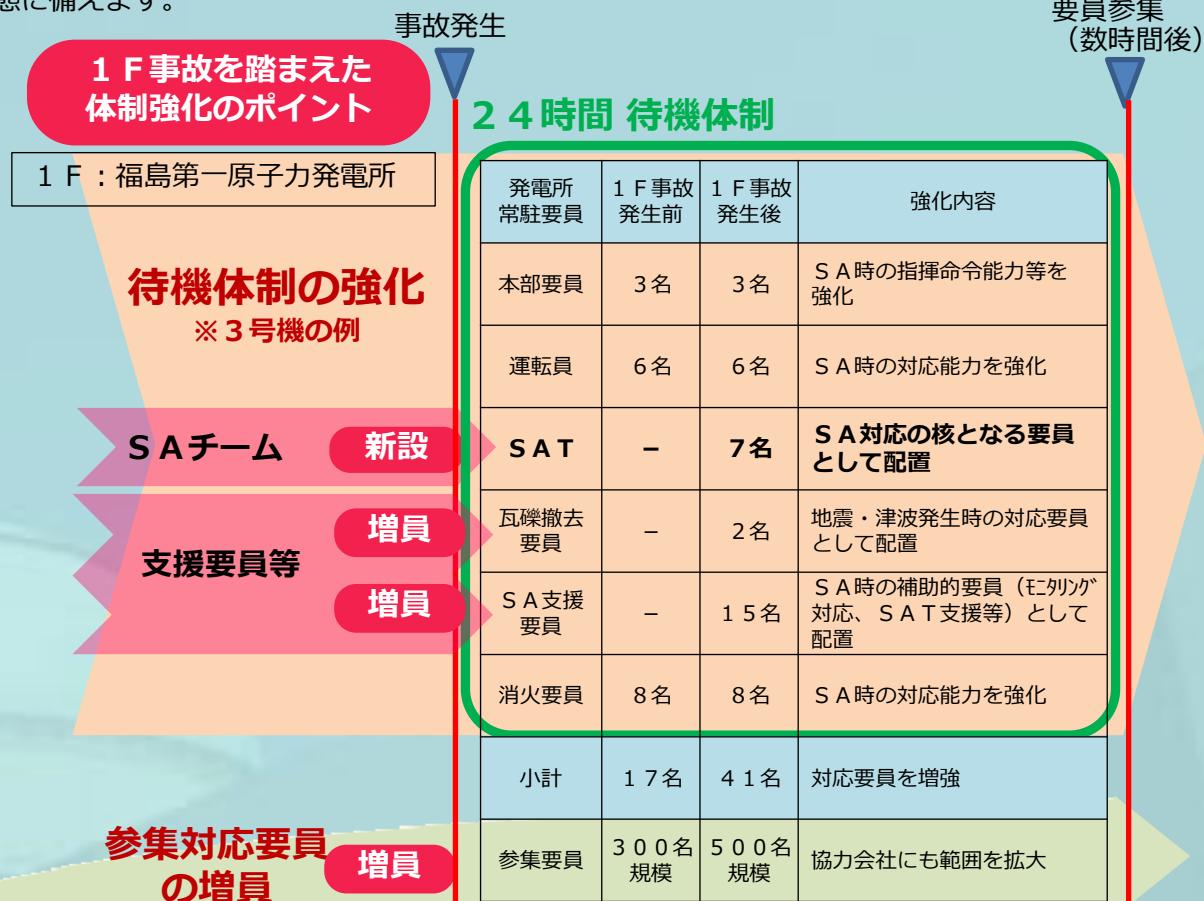
オーバーサイトは、ラインマネジメントとは別に、専門家が発電所のパフォーマンス指標を監視し、改善事項について本店経営層に意見具申する仕組みです。

WANOピアレビューを契機に世界のエクセレンス事例を調査し、原子力安全についての深い専門知識を有する「原子炉主任技術者資格」を有した社員によるオーバーサイト機能の強化について検討していきます。



2-2. 重大事故等対応能力向上のための体制強化

○シビアアクシデント対応を専門に行うSAチーム(略称SAT)を創設することとしました。
○SATは、日常的に教育訓練やSA設備の巡視点検、定期点検及び保守等に従事し、24時間体制で万一の事態に備えます。



3号機のシビアアクシデントに備えた体制

2-3. 防災訓練の充実強化

当社は発電所内での事故対応を想定したオンサイトの防災訓練に加え、発電所周辺地域での停電対応や国や関係自治体との連携も考慮したオフサイトの防災訓練にも定期的に参加しています。

本年は、国主催の防災訓練も予定されていることから、関係自治体のご意見も伺いながら避難住民支援活動等を含めたオフサイトの防災訓練についても一層充実強化していきます。

対応能力を一層充実・強化します

